

深い泉

The Deep Fountain

+幸せを求めるあなたへ

人間を救うための聖なる誕生 聖誕

釈迦、ソクラテス、孔子、イエス この四人を地球上の4大聖賢だと言います。釈迦は、かつて人生の生老病死と百八の煩惱に対する解答を探しに出て、大きい悟りを得てBC 483年に亡くなる前、弟子たちに残した涅槃頃で三不能を告白しました。最初「悪業の報い衆生済度不能」自分の悪業の報いは済度的に解決不可能で、二つ目「無縁衆生済度不能」縁がない衆生は生かすことができなくて、三つ目「三世衆生済度不能」すべての衆生界をみな救うことができなくて、過去と現在、未来を統治するということは不可能だということです。「あなた自身を知れ」という言葉で世の中に知らされたソクラテスは、幼い時期から幻聴をしばしば聞いて、没我状態を経験した「神懸かりの人」だったと言われています。BC 399年に毒杯を飲んで死ぬ前に、弟子に「クリトン、私はアスクレオピスに鶏一匹を借りたよ。あなたが忘れないで、この借金を返してくれ」と言った遺言は、ギリシャ医術の新人アスクレオピスにソクラテス自身の苦しい生活を癒してほしいと頼んだからだと解釈されています。「朝に道を聞いて夕に死すとも可なり」という座右の銘を持って生きた孔子は、論語で告白するのに「獲罪於天無所滄也」すなわち、空に向かって犯した罪は、どこに向かっても空くことができなく、許されることができなと言いました。ある日、弟子の子路が訪ねてきて「死後にはどうなりますか」と尋ねた時、孔子が答えて「人生もまだ知らないのに、どうして死について分かるだろうか」と答えました。釈迦、ソクラテス、孔子の一生が、この世の人間が持っている生老病死と根本的な苦痛を最もよく理解して、答えを探すためにもがいた真実の人間の象徴であるなら、いったいクリスマスの主人公であるイエスはどなたなのでしょう。

聖誕節の秘密-インマヌエル この世のすべての王、将軍、英雄よりも大きい影響を与えたイエス、文章を書いたこともないのに、世の中でイエスに関する文章が最も多く残されているイエス、イエスを信じる必要ないことを知らせるために文を書き始めたウォーレス(Wallace)将軍が、イエスに関する文を書いて、むしろ「ベンハー」という作品を残すように人生を変化させて、アルコール中毒者ヘンデルを変化させて「メサイヤ」を残すようにしたイエス、神様は死んだといったニーチェは精神病院で狂って死んだが、自殺をしようと線路に横になっていたサンダーシングを一言のみことばでインドの聖者に變化させたイエス、ホアンヘドの悪党の最高のやくざだったキム・イクドゥを変化させたイエスの福音、LAの坑道を掘った親分で死刑宣告を受けたスタンリー・ウィリアムス(Stanley Williams)を変化させて2001年以後、毎年ノーベル平和賞の候補に上がるようにさせ、大統領賞を受けるまで變化させたイエスの福音、そして、歴史の基準で世界年度(AD、BC)の基準になったその方、イエスはだれなのでしょう。

聖書は人間の生老病死と百八の煩惱の理由を明らかにしています。その理由が、まさに神様を離れた原罪、罪人として受けなければならない呪いの運命、とうてい勝てないサタンに奴隷になって生きる人生だという事実です。この問題を解決しようと、キリストを送ると約束されて、それが成就した日がまさにクリスマスです。イエスは「ご自分の民をその罪から救ってくださる方」という意味です(マタイの福音書 1:21)。このイエスが、神様に会う道で(ヨハネの福音書 14:6)、罪と呪いと運命の解決者で(ローマ人への手紙 8:2)、サタンのすべての権威を完全に打ちこわされたキリストとして来られました。天には栄光になり、地には最も大きい喜びで、人間を救い、ともにおられるために聖別された誕生の日、その日が聖誕節です。あなたが、まさにこのクリスマスに招待された主人公です。

「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。)(マタイの福音書 1:23)

クリスマスの正しい理解



365 日クリスマス(Christmas) ♥ 「クリスマス」という言葉は「油を注がれた者」という意味の「キリスト(Christ)」と「日、記念日」という意味の「マス(mass)」が合わさった言葉で、人間を救おうとイエス・キリストがこの世にお生まれになった日を祝って礼拝するという意味です。ルカの福音書2章11節に「きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです」と言われていますが、人間を救うキリストがまさに「イエス」です。マタイの福音書1章21節を見れば「マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です」と言われています。したがって、クリスマスは人間に向かった神様の一番喜びのお知らせが伝えられた日で、人間が解決することができない原罪、呪いと運命、サタンの権威を解決する解答が与えられた日なのです。それなら、すべての人に、365 日クリスマスになるべきではないでしょうか。

クリスマス祝祭 ♥ キリスト教が成立して以後、はじめの300年間は、クリスマス祝祭はありませんでした。なぜなら、すべての教会の関心が、ただ十字架に釘づけられ、復活、昇天された王であるイエス・キリストにだけ集中したためです。それで、教会は受肉に対して深く考えませんでした。しかし、時間が過ぎて、キリスト教思想家が、主の性格についてももう少し深い関心を持つようになりました。その時から、教会も受肉の奥深い意味に視線を転じるようになり、特別に東方のキリスト教徒が人として来られた神様の不思議な事件に対して多く考えました。歴史の中で、来られたイエスに対する関心が高まって、教会はクリスマスを喜びと驚きをもって祝い始めました。ところで、クリスマスが12月25日に定められたことについては、いろいろな学説があります。しかし、本当に重要なのは、イエス様が生まれられたことは明らかですが、正確な日は聖書に出ていないということです。日よりは、人間を救うために来られたイエス様ご自身がより一層重要なためです。それで、重要なのは、どの日でも、クリス

マスの主人公はイエス・キリストだという事実と、神様の子どもは毎日、救いの祝福を味わいながら、このうれしい知らせを世の中に伝えなければならないという事実です。これが、まさに私たちを愛してイエス様をこの世に送られた神様の切実な願いです。

サンタクロース(Santa Claus) ♥ 今から約1,700年前、オランダのニコラス(Nicholas)という人は、子どもたちと貧しい人々に大きい善行を行いました。良いことをよくしたニコラスが死んで、人々は「サンタ(saint 神聖な人、聖者)」という呼称をつけて、善行を記念するようになり、サンタ・ニコラスのようにかわいそうな隣を手助けする人を、サンタクロースと呼ぶようになりました。しかし、サンタクロースは、クリスマスの主人公ではありません。隣を愛して優しいことをよくするのは良いのですが、サンタクロースが私たちの罪を許してくれて、救うことはできないためです。真の王、真の預言者、真の祭司であるイエス様だけが、私たちを救うことができるのです。

クリスマスツリー(Christmastree) ♥ 一般的にマルチン・ルターがモミを持って行って自分の家にクリスマスツリーを作ったのが開始だったと思われているのですが、それより100年ほど前から、エジプトとギリシャ、ローマ人が木を飾る習慣があったのですが、人々がキリスト教を受け入れた時、この風俗も土着化して、共に受け入れるようになったのです。常緑樹はイエス様が世の中に来られて新しいいのちをくださることを象徴する意味で使いました。アメリカと北ヨーロッパでは、星がクリスマスツリーの中心になって、南ヨーロッパでは、かいは桶が中心になって、最近の韓国ではてっぺんに十字架を付けるのがクリスマスツリーの中心になっています(マタイの福音書2:1~10)。

初代教会の力を回復する 唯一の方法

パウロを用いられた理由 <継続する力>という本を見れば「感動を伴わない仕事は発展がなく、感動がのらない商品は売れなくて、感動を与えない経営は人々に敬遠される。感嘆詞が出てくる人生になるようにしなさい!」という言葉があります。世の中で成功するのも理由があるように、神様がパウロを用いられたのにも理由があります。パウロはその当時、最高の知識を持っていながらも、キリストを自慢して、伝道現場ごとに会堂と講堂に入っていくほど、その当時の文化をよく理解して、最も重要な霊的な部分をはっきりと分かっていた。世の中の人々が自分の原罪と自分が犯す罪、ずっと反復する霊的問題、個人的に家庭的に受ける災いがありながらも隠しているという事実をパウロは見破りました。そして、人々はこの問題が創世記3章事件から始まったことで、そのために子どもと未来、来世に起きる事を知らずにいるという事実を知りました。それで、ただ福音(創世記3:15、出3:18、イザヤ7:14、マタイ16:16)を回復させる現場の主演として、聖霊の内住、聖霊の導き、聖霊の満たしの方法を持って世界を生かしました。

私はどのようにすべきでしょうか まず私たちの失敗が何か考えてみる必要があります。福音の中に全てがあるのに、それを知らないことです。そして、福音を知れば、毎日、みわざが起きるようになるのに、それを待つことができないのです。福音は、救われた者には神様の力になるから、終わりの日までみわざが起きるようになっていきます。この福音が私たちのたましいの中に根をおろせば、聖霊の働き、御座の働きが起きるようになっていきます。この時、暗やみの勢力が崩れるようになり、私たちの生活の中で、いつも7つのキャンプが始まれば、無条件に勝利するようになります。「イエスがキリスト、神の国、聖霊の働き」を味わう人生キャンプ、ヨセフによってポティファルの家にみわざが起きたように、私の現場にみわざが起きるようになる自分の現場キャンプ、こういう人が教会に集まれば使徒の働き2章の働きが起きるようになる教会キャンプ、いよいよ聖霊の導きを受けて黄金漁場が見えて、死角地帯と災い地帯を生かす現場伝道キャンプ、軍隊に行ったり神学院に行くようになった時、期間の中で現場を生かすようになる特別キャンプを味わえば、いよいよ「ローマも見なければならぬ!!」というパウロが握った一生キャンプの答えがくるようになります。このために、まず祈りの課題から変えなければなりません。危機だけでなく、すべての問題を解決できる「ただ聖霊で満たされる」時、地の果てまで証人になるようになっていきます。この約束を握って、礼拝を通して力を受けて、私だけの定刻祈りの中でインマヌエルを味わえば良いのです。

今日のみことばを握りなさい 神様が重要なことをされる時は、必ずみことばで働かれます。創世記18章17節に「わたしがしようとしていることを、アブラハムに隠しておくべきだろうか」と言われました。福音が回復する時刻表を見る時、福音の道しるべに従ってみことばを握る時、世界福音化のための弟子の道に立っている時、今日、私に与えられるみことばを握るようになります。このみことばを握って、定刻、常時、集中祈りの中に入れば、みことばが成就する答えを味わうようになります。危機時代がきたこの時、不信仰を打ち砕いて、私の無能に挑戦して、全世界の暗やみの文化に挑戦する真の勝利が起きるように願います。

説教_柳光洙牧師、整理_チャ・ドンホ牧師

22日(月)

福音の絶対性を自分のものにしなさい(使徒19:21)

福音を伝える私の伝道を見出す時、聖霊の導きを受けるキャンプを通して神様が隠された永遠な計画の中で、神様と通じる裏面契約を見出す時、福音の絶対性が私のことになりません。

23日(火)

福音より感情が先走る異性問題(創世記29:20)

異性(理性)問題は、肯定的な面と否定的な面をとともに見ながら、信仰に役に立って、学業や機能に唯一性に向かって行けるように契約を成し遂げられる異性に会うように、一時代を動かすほどの配偶者に会うように祈らなければなりません。

24日(水)

宣教を悟った弟子(使徒13:1~12)

福音を味わっていれば、伝道の主演になります。そして、正しい宣教は時代と次世代、文化を生かす祝福になります。この時、神様の時刻表と道しるべ、未来を見出す弟子の主演として立てられるようになります。

25日(木)

イエス復活に対する科学的な理解(ヨハネ20:1~10)

歴史にあった事実と聖書の正確な記録が、イエスの復活を証明して、復活以後にイエスの御名を呼ぶ所に現れた聖霊に満たされる働きも、またこれを証明します。イエスの復活は、まさにイエスがキリストだと証明した事件です。

26日(金)

たましいのフォーラム(使徒1:12~26)

誰でも神様が願われるところにいれば、当然な答えを受けるようになります。聖霊の内住、導き、満たしを受ければ、私と現場に必要なこと、一時代が見え始めます。福音の当然性、必然性、絶対性がたましいの中に根をおろせば、人を生かすたましいのフォーラムが出てくるようになります。

20日(土)

個人が崩れる葛藤(1サムエル3:19)

自分とメッセージと働きが合わなければ葛藤が生じます。葛藤がくる時、先に理解する姿勢が必要で、個人的な答えを捜し出して聖霊の導きを受けなければなりません。レムナント7人は、こういう葛藤を越えて、個人の答えを捜し出して成功しました。

週間メッセージ

- | | |
|------|----------------------------------|
| 産業宣教 | 必ず回復しなければならない初代教会の方法(使徒1:8) |
| 伝道学 | 葛藤(13)-問題起こす既成世代(使徒5:1~11) |
| 核心訓練 | 不幸な運命に陥った者たちのために(1コリント1:18~31) |
| 聖日1部 | 今でも初代教会の能力を回復することができます(使徒2:1~13) |
| 聖日2部 | 危機を解決する唯一の方法(使徒2:14~21) |



イラスト_ユン・スルギ

人間とは何なのか

子どもたちは、文字が好きなので、なぜなにが好きだ。しかし、年を取れば文字よりは状況に酔うので、文字をひねることを楽しむ。この頃、コンピュータ相談の言葉がそんなことだ。無条件に批判するよりは、子どもたちの性格を理解すれば、彼らを知るようになる。

エジプトのスフィンクスが、むずかしいなぞかけをしたということだが、そこを通り過ぎる人に質問して答えが合う人にだけ通行を許したという。問題はこれだ。生まれたら4本の足で、成長したら2本の足で、老いたら3本の足で通うのは何かということだった。答えは人間だ。人間でなければ、道を行くことができないという古代人の知恵が見られる。それでは人間とは何なのか。人間は4つの部類の人である。原人、罪人、義人、幸福な人だ。

原人である本来の人間は神様のかたちを持った価値があった人だ。宇宙の創造物の中で最も美しい地球をまるごと思いきり味わえる人々だった。神様に直接対面して、その御声を聞きながら生きたので、永遠に生きる人で、自然万物の名前をつけて、詩を書ける美しい人だった。しかし、今、その人はどこにもいない。

罪人は、アダム以後のすべての人だ。知恵者が言うのに、アダムは罪のために罪人になって、その次の世代は罪人なので罪を犯すということだが、当然な言葉だ。神様に不従順になった人間は、そのみことばを離れたので、永遠ないのちの代わりに永遠な死を受けて、味わう自由の代わりに暗やみに押さえられるようになり、原罪を選択したので地獄に行って、自分が犯す罪で苦しみを受ける。

義人は自分も分からない問題を発見して、イエスがキリストであることを信じて救われた人だ。霊的問題の苦しみと偶像問題の虚無と、精神問題の煩いと、肉体的な問題のくやしさと、人生の問題である地獄と次世代の問題であるさまよいから、自由を得

た人々だ。身分を持った者の權威を味わうことができる、いのちを持った人々だ。

幸いな人は、救いの自由を世界福音化のためにささげることができる少数の人々だ。自分自身が誰だと思っても、謙虚に区別して、契約の下に屈服して子どもがレムナント(次世代)として聖別されたナヅル人であることを確信して、自分自身の人生を福音の働きを成し遂げることに喜んでささげ、不便さを機会として味わうことができる答えの人で、小さい者が干を成し遂げ、強国を成し遂げる最後の時代の最高に祝福された人々だ。契約を知らなかった時代には、自分の経験と限界を越えることができなかったが、福音の恵みを受けてみれば、足りないことも機会になって、おろかなことも方法になる。だれでも幼い時は、膝で這い回る。それでも老いて、必ずツエについて通う理由はないのだ。

人間は4つの部類の状況を避けられない。選択できなかった原人、罪人だったが、今は選択できた義人の座から幸いな人の座に進むのは、神様の贈り物でもあるが、恵みを受けた信徒の当然な献身といえる。今回のクリスマスには、このような幸いが個人と家庭にいっぱいになることを手を合わせて祈る。

文_チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)



大切な彼らと
ミュージカル「契約の旅」
ともに公演しましょう

*相談がある方は、こちらまでどうぞ